

平成19年5月16日（水）

平成17年国民健康・栄養調査 結果の概要について（発表）

（配布資料）

- 平成17年国民健康・栄養調査結果の概要について
- 平成17年国民健康・栄養調査結果の概要
（平成18年国民健康・栄養調査「速報」を含む）

平成17年 国民健康・栄養調査結果の概要について

子どもの体型及び生活習慣について

- (1) 体型の状況を年次推移で見ると、男女共に「普通」の者の割合が減少傾向 (p. 3)
体型の状況を年次推移で見ると、「普通」の者の比率が男子は昭和63年の64.0%から平成17年の57.0%と7ポイント減少し、女子は昭和63年の62.1%から平成17年の56.6%と5.5ポイント減少していた。
- (2) 朝食を「子どもだけで食べる」と回答した者の割合は増加傾向 (p. 6)
ふだん、子どもが朝食を誰と一緒に食べるかについて、「子どもだけで食べる」と回答した者の比率は、小中学生共に増加傾向であり、平成17年には小学生においても40%を超えていた。
- (3) 夕食を19時以降に食べる子どもの割合は増加傾向。特に、20時以降に食べる子どもは、平成5年と比べて5.4ポイント増加 (p. 6)
ふだん、子どもが夕食を何時に食べるかについて、「19時以降」と回答した者の比率は増加傾向であり、特に「20時以降」は、平成5年の1.7%から平成17年の7.1%と、5.4ポイント増加していた。

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の状況について

- 40～74歳で見ると、男性の2人に1人、女性の5人に1人が、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者又は予備群と考えられる者 (p. 9)
- 40～74歳で見ると、強く疑われる者の比率は、男性25.5%、女性10.3%、予備群と考えられる者の比率は、男性25.0%、女性9.5%であり、40～74歳男性の2人に1人、女性の5人に1人が、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者又は予備群と考えられる者であった。

飲酒の状況について

- (1) 初めて飲酒したきっかけは、男女共に約6割が周囲からの勧め (p. 15)
「初めて飲酒したきっかけ」について、「先輩、上司等の日上の人に勧められたから」、「友人に勧められたから」、「親、親類等から勧められたから」を合わせると、男女共に各年代において、約60～70%であった。
- (2) 未成年者について「全く飲酒すべきではない」と回答した者の割合は、男性で約8割、女性で約9割 (p. 16)
「車を運転する前または運転中」に「全く飲酒すべきではない」と回答しなかった者の比率は、男性1.6%、女性1.4%であった。同じく、「妊婦・授乳婦」に対しては、男性で約20%、女性で約15%であった。

喫煙の状況について

- 喫煙率は男女共に平成16年に比べ低下し、男性は4割を下回った (p. 17)
- 喫煙率の年次推移を見ると、男女共に平成16年に比べ低下し、男性39.3%、女性11.3%であった。

栄養素摂取の状況について

- エネルギー摂取量の平均値は、男女共に漸減傾向。脂肪からのエネルギー摂取が30%以上の者の割合は、成人の男性で約2割、女性で約3割 (p. 18)
- 脂肪からのエネルギー摂取が30%以上の者は、成人の男性で18.1%、女性で26.6%であり、年次推移で見ると、30%以上の者の比率が漸増していた。